

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区岩本町 2-10-12
園名	岩本町ちとせ保育園 5歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音を表現してみよう ～音を描いてみよう～

<テーマの設定理由>

リトミックを通じて音を身体で表現することが楽しいという姿が見られてきたので、音を描くという見えないものを見えるものとして捉え、表現することを楽しめるような活動を取り入れた

2. 活動スケジュール

10月：様々な楽器に触れてみよう
10月：太鼓や様々なものをたたいてみよう
→音を描いてみよう
11月：トーンチャイムキャッチボール
1月：音を表現してみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・タンバリン・鈴・トライアングル・木琴・鉄琴・トーンチャイム・ハンドベル・ウッドブロック・大太鼓・小太鼓・和太鼓・シンバル・ツリーチャイム
・身の回りの廃材（音がでるもの）
・文字のない絵本
・画用紙・クーピー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【太鼓を使って音を描こう】

・音は見えないというところで子どもの興味関心をひく。

太鼓を鳴らしてまずは音を楽しんでみる。次に音を見よう！と提案。太鼓の上に水の入ったコップを置いて太鼓を叩いてみる。

コップに入った水が揺れた。振動で揺れる動きを音として捉える姿が見られたのでみんな太鼓の音を描いてみようとして展開させる

次に手芸ポンポンを置いて太鼓を叩いてみる。強弱をつけることによって跳ね方が違うことに気づく。手芸ポンポンを使った音も描いてみたいという発信があったので画用紙に音を描いていく

【トーンチャイムキャッチボール】

合奏で合わす前に正しい持ち方というより音の探求や音を届けるというところに意識をもって取り組めるようにした

トーンチャイムをもって円になる。音を届けたい方向にボールを打つイメージで鳴らすということを伝え、音のキャッチボールをはじめ

【音を表現してみよう】

・嬉しい音ってどんな音？・怒った音、悲しい音ってどんな音？と子どもたちに質問を投げかける。まずは擬音で表現してみる。次に楽器をもって表現をする

感情によって音の大きさが変化したり、叩き方、触れ方も変わってくるということに気付く。

～絵本を通して～

文字のない本を用意して絵本の中に音を足していくという活動に展開する。

まずは声で表現→身の回りのもので表現（新聞紙、スズランテープ、空き箱）→楽器で表現

一枚一枚の絵（ページ）から想像される音を表現することを楽しんだ

【太鼓を使って音を描こう】

・音は見えるかという質問に対し、「見える音と見えない音がある」「ラッパは空気が見える」
太鼓に水の入ったコップを置いて叩くと「真ん中がうずまきみたいになっている（振動によつて）」
「プランクトンをほっけがたべようとしているところ」「ぶくぶくしている気泡がおもしろい」

絵に描いてみる（絵の内容）

“【7】とか【な】にみえた” “白い丸だったり黒い丸に見えた”

“プランクトンを追いかけてまわしている様子”

・手芸ポンポンを使って叩くと「カエルみたいに跳んでいった（跳んだ様子を見て全身を使つても表現してみる）」
「花火みたい」

絵に描いてみる（絵の内容） “線だったり、とげとげ、ポツポツ” 線や色で表現する子が多かつた

→見える音はそれぞれ違ってよいということを伝え、自由に表現できるようにした。伝えたい音を視覚的に表現することを楽しんだ

【トーンチャイムキャッチボール】

・音をボールに見立てて届けるというイメージで鳴らすように見本でやってみる。
届ける側と受け取る側できちんと友だちを意識して、積極的に取り組む姿が見られた
音が続くとキャッチボールが成功したと喜ぶ姿が見られた。

【音を表現してみよう】

感情を音で表現してみようと子どもに嬉しい音、悲しい音、怒った音ってどんな音？と質問をする

楽器を叩いて表現するように促す。「嬉しい音は弾んでる感じ」「怒った音は強い感じ」

「悲しい音は静かな感じ」思い思いに表現したものを言葉で伝えあう

叩き方を工夫したという子は「太鼓だったら真ん中ではなく端っこの方を叩いた」

感情によって音が違うことに気づく。

～絵本を通して～

音のない、文字のない絵本をめくってこの絵本に音をみんなですべて足していくことを伝える

「めざまし時計がなる。どんな音？」「ジリジリジリ・・・」
「飛行機がとんでるね、どんな音？」
「ビューン、ゴー！！」

それぞれが対象とするものに音をつけていくことを楽しむ。

身の周りのもので音を表現する際に、様々な音の表現の仕方があることを伝え、それぞれの音の表現を尊重し、子ども同士で聞き合えるようにする

楽器で表現する際は、この絵（音）はこの楽器かな？こっちなかな？と

絵から（ページ）想像される音を探求している姿があつた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・音を描く活動では振動で揺れる動きを音として捉え、音が見えた！と表現する姿があり、五線譜だけで表される音だけでなく伝えたい音、自分が見た音を視覚的に表現することを楽しむことができて良かった
- ・感情や生活音を音にする活動では子どもにとっては、身近なものがすべて楽器になり、音色を探求する活動に発展することができ良かった。